

浦兵庫頭^{もりすえ}盛永が居城した地所である。

1977年 八郎潟町史

うらおおまち

山頂にある副川神社を中心に浦大町や浦横町はその門前町であった。「マチ」地名は、市の意と解される。

1987年三浦鉄郎著 新編・秋田の地名

うらおおまち

戦国時代から見える地名。天正15年(1591)の秋田家文書に「うら町村」という記載がある。慶長6年(1601)の秋田家分限帳では「湖道浦町村」と書かれている。秋田郡と檜山郡との郡境を画す高岳山の南麓に築かれた浦城の城下町である。同文書には東接する横町村も別記される。(中略)17世紀後半の郡村改めにより、浦大町と改称。やがて浦横町村を分出。

1998年 北嶋雄一著「中世の八郎潟町」

うらおおまち〈八郎潟町〉

高岳山南麓に位置する。中世は浦町村。〔近世〕浦大町村。江戸期～明治22年の村名。出羽国秋田郡のうち。秋田藩領。「正保田絵図」では浦大町・浦横町両村を合わせて浦町村364石と図示。その後両村は分村し浦大町村となる。延宝9年7月20日茅野鞠負宛て指紙に「新田之分浦横町・同大町・小立花之百姓共二為作」とあり(弘戸渡部家文書)、この頃には分村していたことが知られる。天和4年「黒印高帳」では、浦大町村村高306石余・当高328石余(うち本田197・新田131)とあり、年貢率64%と高い。「元禄7郡絵図」の浦大町村364石余は浦横町村分も含む。「享保黒印高帳」では村高317石余・当高332石余(うち本田197・本田並111・新田24)、寛政村附帳で335石余(すべて給分)と認定。東方の山間村である白水沢・小立花の両村をたびたび併合・分離。「天保郷帳」587石余は浦横町村分を合算した数値。戸数は「享保郡邑記」で52軒、「秋田風土記」で54軒。親郷一日市村の寄郷である。

古代以来の霊山高岳山は保呂羽山と呼ばれたともいい(秋田風土記)、山頂に式内社副川神社が復活、秋田藩三社として藩主から社領30石を寄進、尊崇を受ける。高岳山講は近年まで存続。

また中世以来の常福院は真言宗盛医山東国寺(久保田町宝鏡院末寺)と号す。村鏡守は神明社。修験法性院(鈴木家)や松岡氏は幕末に寺子屋を経営。幕末には白水沢・小立花の両村を併合。

明治8年五立学校開校。同11年南秋田郡の村として、戸長役場を一日市に置く9か村と連合。

同22年南秋田郡面潟村の大字となる。

〔近代〕浦大町。明治22年～現在の大字名。はじめ面潟村昭和31年からは八郎潟町の大字となる。

昭和33年白水沢・小立花地区は五城目町に編入。

〔地誌編〕 浦大町 〒018-16

〔成立〕 昭和31年9月30日

〔直前〕 面潟嘉圭村大字浦大町

〔世帯〕 107〔人口〕 494

町の北東部。農村地帯。北は山本郡琴丘町、東は五城目町に接する。集落は町境をなす高岳山系の南麓に展開。県道真坂一五城目線が中央を東西に貫通。浦城址は中世に構築された三浦氏の居城。高岳山には秋田藩主佐竹氏が修築した副川神社がある。寺には真言宗智山派盛医山東谷寺常福院があり、施設に生活改善センターがある。

1980.3出版 角川日本地名大辞典 5 秋田県

うらじょう【浦城本丸跡】

高岳山^{たかおかしん}の東南東に位置する東西に長い山を利用して造られた山城です。幅は狭く、東西に郭が続く連郭の腰郭の城で、東西南端には空堀があり、頂上の連郭をなす部分だけで330mもあります。南北側は急峻で、途中平坦面がいくつかありますが広くはありません。

山麓にほぼ同様な施設を認めることができます。

この城の創建年代は不明です。三浦氏一族は、山内城、馬場目城とこの浦城に分かれ、戦国時代には、三浦義豊・盛永が浦城に拠り、三浦一統の